

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4078100114
法人名	有限会社 フリーウィル
事業所名	グループホーム こよみ
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡黒木町大字本分1405 (電話) 0943-42-4516
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年10月10日

【情報提供票より】(平成20年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造 1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input checked="" type="radio"/> 有 (50,000 円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村循環器科・内科、みやぞの歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外見は数寄屋風な純日本家屋の平屋で、木目が美しい木をふんだんに使用された落ち着いた建物である。ユニット間が幅広いデッキで結ばれており、サンサンとふりそぐ太陽が気持ちよく明るい環境である。ホーム代表者は、設立前は規模が大きな施設にて就業していたが、利用者と共に生きていける道を求めながら、家族の協力を得て設立に至った。ホーム内は利用者が落ち着いて生活できるように電灯の配色、壁の色と細やかな配慮が行き届いている。終末期をいかにその人らしく迎えることができるか、日ごろより家族の信頼を得ながら関係職種との連携を深め支援している。利用者の気持ちを大切に姿勢が全職員の言葉かけから十分に感じられる。穏やかな空気の中に利用者の笑顔があふれていて、利用者個々が役割を持って生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を活かし全職員で検討し、できる項目より取組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム代表者が原案を作成し、全職員が各項目に目を通し追記している。最後にホーム代表者がに入された内容をまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	役場職員、民生委員、隣組代表、家族代表、管理者、ケアマネジャー、利用者代表等が参加している。ホームの活動状況、行事報告、外部評価結果を公表して貴重な意見や助言を参加者から受けている。出た意見はホームの質の向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族が月一回支払いに訪問した時に意見を聞いている。意見や要望は職員会議や関係職種間で話し合い運営や活動に反映させている。以前、利用者には活字を読ませて欲しいという意見があり、献立を書き読んでもらうようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎年開催される役場主催の福祉フェスティバルでは、利用者も作品を展示している。搬入、搬出も利用者と一緒にいり祭りを楽しんでいる。週二回は地域のスーパーマーケットに買い物に行き、馴染みの人たちと交流を深めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との連携と交流を図りながら、地域の中でその人らしく日々の生活を送るため、『自由意志・自由選択』を事業所独自の理念として作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングで職員は理念を唱和し確認している。月一回の職員会議にて理念の再確認や実践されているかを話し合い、日々の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年開催される役場主催の福祉フェスティバルでは、利用者も作品を展示している。搬入、搬出も利用者と一緒に行事を楽しんでいる。週二回は地域のスーパーマーケットに買い物に行き、馴染みの人たちと交流を深めている。散歩時は隣近所の方々と挨拶を交わし楽しいひと時を地域住民として過ごしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解している。ホーム代表者が原案を作成し、全職員が各項目に目を通し追記している。最後にホーム代表者が記入された内容をまとめている。改善項目は、改善計画シートを作成し、取り組みやすいところから実施に向けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場職員、民生委員、隣組代表、家族代表、管理者、ケアマネジャー、利用者代表等が参加している。ホームの活動状況、行事報告、外部評価結果を公表して貴重な意見や助言を参加者から受けている。出た意見はホームの質の向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度について分からないことがあったらすぐに相談に行ったり、ホーム内の行事案内や利用者の状況など情報提供している。町からは空室状況の問い合わせや、町主催の研修会案内などがあり、連携を取りながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修会に参加している。学んできた内容は、職員会議にて伝達研修を行って全職員が理解している。資料を使用し利用者、家族には契約時や訪問時に情報提供ができるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回はホーム便りを送り、利用者の日ごろの状況を報告している。預かり金はないが、買い物に行った時の清算を家族が月一回の訪問時にしている。その時にはホーム内の取り組みや、職員の異動、行事報告等をしている。利用者の状態の変化に合わせて、必要の際はその都度家族には電話をかけて報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際に、意見を聞いている。以前、利用者に活字を読ませてほしいという意見があり、献立を書いて読んでもらうようにしている。意見や要望は職員会議や関係者で話し合い運営や活動に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日ごろよりユニット間を行き来し、利用者とは顔馴染みの関係になれるように取り組んでいる。職員の離職を最小限度に抑えるよう働き甲斐のある職場作りに努力している。新人職員はベテランと組み合わせることで、利用者にダメージにならないように配慮している。家族訪問時にはホーム代表者が紹介をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては、年齢・性別等の条件はない。採用後は希望に合った休暇の取得や、家族の用事での急な休み、資格取得のための学習、外部研修の受講など自己実現や社会参加の取り組みが支援されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市町村等の外部機関が主催する人権研修に参加している。職員会議にて内部伝達研修は行っている。日常生活の中で実践されていくことの大切さを全職員は理解し、取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画をたて、職員一人ひとりに合わせた研修内容で育成に取り組んでいる。外部研修も積極的に支援し勤務調整等、受講しやすい環境を整えている。受講後は職員会議にて内部伝達研修や資料閲覧を行うなど、働きながら質の向上に活かせるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の研修会には参加しお互いの情報交換は行っている。ケアの状況等がわかり、新たな気付きの機会になっている。他ホームの行事や接遇など工夫されているところを見て、ホームの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居利用前は必ず見学をしてもらっている。訪問が困難な場合は事前に面会に行き、本人、家族、関係者から情報をもらい馴染みの関係を築き、納得された上で利用開始に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の手順や味付け、風習などを利用者から折につけて教えてもらっている。長年の経験で無駄のないようにちよつたしたこつを職員は学び、日々の活動に活かしている。職員は利用者を人生の先輩として敬いながら共に支えあう関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から、これまでの生活の状態等を聞き取り、本人の体力や性格を把握すると共に、好きな事などを日常の会話の中から思いや意向を汲みとっている。思いをうまく伝えられない方は、職員で情報交換したり、家族の協力を得ながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望、及び病院よりの指示などを得て、職員全員で介護計画の内容を検討し、家族へ報告をした上で、家族より内容把握の押印と意見を求めている。それぞれの意見やアイデアが反映された介護計画の作成に取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況や効果などを、評価、検討して月に1回程度は定期的に見直しをしている。状態の変化など必要に応じその都度見直し、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や、その時々希望に応じて、受診の送迎や、入院時の見舞い、洗濯物の持ち帰り、家族の宿泊、及び食事の提供など、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、これまでのかかりつけ医での受診と共に、事業所の協力医療機関での対応、及び、緊急時など24時間適切な医療が受けられるよう、体制が整えられている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医療機関、全職員で情報を共有し、出来る限りホームでの生活を支援している。重度化や終末期のあり方については、必要に応じて説明し状況に合わせて関係者との話し合いを繰り返し行い、統一した方針を全員で共有している。これまでに8名の方を終末まで介護している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや、介護については、尊敬の意を持った言葉遣いを、職員間で十分に気をつけ徹底している。利用者の個人情報は職員室にて管理している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝、食事、入浴など、日常生活の流れはあるが、利用者の意志を尊重して、最優先に考えたうえで、体調や状態に合わせ、一人ひとりの生活時間に合わせて対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に調理、盛り付け、配膳、お茶汲みなど、利用者一人ひとりの、能力に合わせての支援が出来る。利用者と職員は、同じテーブルで食事を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の体調と希望を確認し、入浴の順番にも配慮している。入浴拒否の利用者については、足浴と清拭、及び更衣で日々の清潔を保つよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、おしぼり巻き、掃除など、日常生活の中での役割作りを支援している。折り紙、塗り絵などの楽しみごと、気晴らしに散歩なども自然体で個々の力を活かした支援が出来ている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの花見、月2回ドライブや観光に行っている。又、週2回の買い物や日々の散歩、花の水やりなど常時屋外に出るようにしている。現在、男子職員と釣り好きの利用者とで釣りの愛好会を計画中である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、センサーが設置されている。利用者の外出を察知すると職員が一緒に出かけ、しばらく散歩するなどの対応をしている。不穏状態の利用者がいる場合を除いては、夜間の施錠以外は、基本的に鍵は使用していない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回、昼間、夜間等を想定しての避難訓練を実施し、救急法等の指導を受けている。緊急連絡の組織表や手順書などを作り、全職員周知している。地域の協力と理解を、運営推進会議を通じて働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態にあわせ、嚥下力や咀嚼力を把握し、粥食や流動食にして対応している。提携医や栄養士の指導のもと、水分補給や摂食量を記録し、全職員で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビングの窓からは季節の移り変わりを眺めることができる。ホーム内は、明るく、木造で馴染みやすい雰囲気である。畳コーナーの座卓では、塗り絵を楽しむ利用者の姿が見られる。トイレは、各ユニットに、車椅子が使用できる十分な広さで設置されている。照明、動線、壁の配色に気を配り、動き易く、居心地よく過ごせる工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の好みに応じて、畳敷きとフローリングの居室があり、思いのこもった馴染みの物品を持ち込み、利用者に合わせてベッドの向きや仏壇の配置を考慮し、本人が居心地よく過ごせる個性ある個室になっている。</p>		